



Asian Productivity Organization
 “The APO in the News”

Name of publication: Nouse News (26 June 2017, Japan)

Page: 8

APO
ミャンマー高官が来日
日本の米関連産業を視察

アジア生産性機構（APO）は6月12～16日、業としてミャンマーから

担当者を引き、先進的な米関連産業の取組みに係る視察研修を行った。視察のため、ミャンマーからは商工会議所事務局長をはじめ、省庁や農業関連組織の高官が来日。研修を通し、ミャンマーにおける重要産業の稲作、米関連産業の生産性向上、国際競争力の強化を通じた成長産業の育成につなげることが目的だ。

ミャンマーでは、農林水産業がGDPの約4割を占め全人口の約6割が農村に居住、就業人口の約6割が農業に従事しており、地域経済において重要な役割を担っている。とくに米については国民の主食であることも

に総農地の2/3で栽培され、基幹的な作物となっている。そのため、ミャンマーの稲作及び米関連産業への関心は非常に高い。

研修初日の12日は開講式の後講義等が行われ、日本の食品産業に適した高収・高品質な米の品種育成と題し、農研機構の次世代作物開発研究センターの山口誠之稲研究領域長などが講演。日本の稲作の現状や育種の方法等について解説した。

その後、13～16日にかけて視察団は各地を見学。農研機構（稲作に係る研究、先進的な灌漑技術の紹介）、クボタ筑波工場（トラクターの製造過程見学）、サタケ本社（米関連を中心とした食品産業総合機械、プラント設備及び食品の製造販売）などを見学した。

ミャンマーの視察団は帰国後、視察研修で得た知見、技術を普及するため、所属する政府機関・団体等で会合、研修等の実施を予定している。

開講式での集合写真